

やけののそよ風



「いじめについて考える日③」

本校では、「いじめ防止基本方針」のもと、定期的に学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見や実態把握に努めています。また、今年度、「いじめについて考える日」を本校独自に年間3回設定し、全校朝会での校長講話や各学級での指導を通して、子どもたちや教職員の「いじめ防止」の意識を高め、「いじめは絶対に許されない行為であること」を学校全体で再認識する機会としたいと考えています。

今年度3回目の「いじめについて考える日」は、1月30日に設定しました。いじめを抑止するためには、「いじめている子」「いじめられている子」以外の第三者の言動が大きく影響します。「いじめ」や「いじめにつながるような言動」を客観的に見ていく子どもたちが「いじめ」を批判的に捉え、「いじめは絶対に許されない」と発信する、「いじめられている子」に寄り添う、信頼できる大人に相談する等、自分にできることを行なうことが、「いじめ」の大きな抑制力となります。全校朝会の校長講話では、子どもたちが、いじめにつながる言動に気付き、自分にできることを行おうとする態度を育てたいと考え、「いじめブレーキ」の話をしました。



以前に勤めていた学校の、ある先生から聞いた話です。

Aさんのチームは1位になれませんでした。Aさんのチームには走ることが苦手なBさんがいました。Aさんは、1位になれなかつたことが悔しかったのか「Bのせいで負けた」とみんなに聞えるような声で言っていたそうです。Bさんは、一生懸命走っても、人より速く走れないことを自分でもわかっています。Aさんの言葉が聞こえてきて、Bさんはとても悲しい顔をしていたそうです。みなさんなら、Bさんにどんな言葉をかけてあげますか。

でも、同じチームのCさんは、負けたことをBさんのせいにしたAさんに向かってこんなことを言いました。

「Bさんの分も、自分たちがもっと早く走ればいいでしょ。」

Aさんはこの後、何も言えなかつたそうです。

人には、得意なこと、苦手なことは必ずあります。それを責めても仕方がありません。でも、このCさんの一言が、クラス全体がいやな雰囲気になることにブレーキをかけたのです。もしCさんが、「そうだ、そうだ」とAさんの言葉にのついたら、さらにクラス全体に広がり、いじめにつながっていたかも知れません。

人の心に傷をつける言葉に気付いたら、「それは言い過ぎや」とか「それは言ったらあかんやろ」「それは し

たら あかんのどちらがう？」とブレーキをかけることができる人が増えてくれば、そのうち、いじめている子は、自分がしていることはかっこうのよくないことだとわかつてくるはずです。

この「いじめブレーキ」を正しく使い、みんなが安心にすごせるクラスをつくっていくのは、クラスの「誰か」ではなく、「自分」です。このブレーキが壊れてしまうと、いじめは暴走を始めます。そうすると、いじめの矢が「誰か」ではなく、「自分」に向かってくるかも知れません。自分たちの学級の「いじめブレーキ」が壊れていないか、みんなで点検してください……。



児童朝会の後、朝会講話の内容を振り返り思ったことや考えたことを作文に書いたり、クラスの中での友達関係について振り返ったりするなど、いじめについてクラス全員で考えた学級がたくさんありました。
(裏面に続く)

(表面より)

子どもたちが書いた、いじめについて思ったことや考えたことの一部を紹介します。

- CさんがAさんに前向きなあの言葉がなければ、もしかしたら他の人からも言われてたかもしれないし、Aさんがもっと責めていたかも知れない。Cさんはみんなの手本になるかっこいい行動だと思った。ぼくもCさんのようななかっこいい人になりたい。
- いじめやわる口をだれかが言っていたら、それを止めることが大切。止めてくれる人がいなかったら、いやなことをされた人の心とかきずついたままだけど、止めてくれて少しほっとしていると思う。だれかがしているからとかで、のっかってするんじゃなくて、それを見てちゅういする心が大切だし、ちゅういされてはんせいする心も大切。
- AさんがBさんに言っていることはまちがっている。でも、それをとめるためには、ゆうきが必要だ。そのゆうきをふりしぶってCさんがAさんに言ったことはまちがっていない。そもそもAさんはなぜBさんだけをせめたのだろうか。もしBさん以外の人がおそらく、AさんはBさんしかせめないのである。なぜならAさんはBさんの足がおそいことしか見ていないからだ。自分たちのチームが負けたからって足のおそいBさんだけせめるのはだめだ。だからCさんがAさんに言ったことはまちがっていない。
- AさんがBさんにひどいことを言っていたけど、CさんがBさんを助けたいから、Cさんのような人が焼野小学校にたくさんいてほしいと思う。いい人がふえて、笑顔あふれる焼野小学校になってほしい。
- 人のもんくを言うんじゃなくて、はげまし合うことが大切。走るのがおそらくがんばって走っていたらはく手をしたらいいと思います。
- Cさんのあの言葉はすごいと思った。BさんのせいでまけたことはCさんにも分かっていると思うのに、その言葉が出てきたのはすごい。クラスでいじめがおこらないように、ふだんから仲間はずれとかむしとかないようにしようと思う。自分もCさんのように、ああいう言葉をかけられる人になりたいと思った。
- Cさんみたいに「だめなことはだめ」としっかり言える人になりたい。少しこわくて言えない時もゆうきを出して言いたい。
- 今日1日（自分の周りにいじめがないかどうかを）意識してみたら心がすっきりしました！これからもいじめがなくて最高のクラスのまま6年生を迎えることができたらいいなと思いました。校長先生の言葉はいつも心にひびきます。



いじめは、「いじめの芽」から始まります。「いじめの芽」が「いじめ」にならないように、また、いじめを深刻化させないようにするために、子どもたち一人一人が問題意識をもち、いじめを見過ごさない、見逃さない集団をめざすことが大切です。そのためには、「いじめについて考える日」などの機会を通して、「いじめ」の問題を自分のこととして捉え、主体的に考え、行動できる子どもを育てていきたいと考えています。「どのような言動がいじめにあたるのか」を考えたり、「安心して過ごせる学級」について話し合ったりすることで、「傍観している子」をつくらないことにつながります。

本校では、いじめは「いつでも、どの子どもにも、どの学校においても起こりうる」という認識のもと、いじめの未然防止に力を入れて取組んでいきます。そして、他人の心の痛みが分かる子どもを育て、思いやりあふれる学校づくりを進めたいと考えています。今後とも、保護者の皆様のご協力をお願いします。また、お子さまの様子で気になることやご心配なことがありましたら、いつでも学校にお知らせください。